

## 【要 旨】

### 1. 研究背景

本研究は、介護保険施設の一つである介護老人保健施設（以下、老健施設とする）に就業する看護者の職務満足に焦点をあてる。老健施設は医療機関から在宅への中間施設として位置づけられ、医療依存度や介護度の高い高齢者が在宅生活へ移行できるよう支援を提供している。

一般的に、高齢者施設では、管理体制や研修などの面から看護者の職場環境は充実しているとは言い難い現状であること指摘されており、看護者の満足向上を図るには課題が多いことが予測される。一方老健施設に就業する看護者の実態は明らかにされていないが、2007年の調査によると、介護保険施設の一つである介護老人福祉施設看護者の離職率は25.3%と示されている。別の調査では病院常勤看護者の離職率は12.6%とされ、介護老人福祉施設看護者の離職率は病院と比較すると非常に高い。老健施

設においても看護者の離職率は高いことが推測される。看護者の離職に関する先行研究では、離職防止・定着には看護者の職務満足感の維持・向上が重要である事が明らかとされている。老健施設に就業する看護者のやりがい・満足感の実態、これに繋がる要因を明確にし、職業継続に向けた看護者支援の在り方を検討する必要がある。

### 2. 研究目的

看護者のやりがい、職務継続意志の現状を調査し、個人背景や自己の看護実践力評価の中から関連要因を明らかにする。これらを参考に看護者への支援の在り方について検討する。

### 3. 研究方法

老健施設71施設に就業する看護者（准看護師・看護師）670名を対象とし、自記式質問紙調査を実施。郵送にて回収を行った。アンケート回収数383名（回収率57.1%）、有効回答数323名（有効回答率48.2%）であった。